協会活動の目的

この会は、日本政府の侵略戦争の歴史を教訓にして、日本と中国が再び戦うことのないよう、日中両国民の相互理解と友好を深め、平和五原則にもとづく両国関係の発展に寄与し、アジアと世界の平和に貢献することを目的とする。

日中友好新聞

発行所
日本中国友好協会
〒111－0053
東京都台東区浅草橋5-2-3鈴和ビル5階
電話 03(5839)2140(代)　FAX 03(5839)2141
https://www.jcfa-net.gr.jp/
E-mail:nicchu@jcfa-net.gr.jp
振替　00110－1－21176
定価(税込み)1部200円(毎月1、15の日、月2回発行)
購読料は会費(1カ月900円)、準会費(1カ月400円)に含まれます（送料別途加算）

2021年
1月1日

豊かな文化交流史の絵巻

中国・福建と日本

東京の古美術展に見る

廖赤陽（りょうせきよう）

司馬遼太郎「閩（びん）のみち」

司馬遼太郎は、その『街道をゆく、中国・閩（びん）のみち』の中に次のように書いた。「福建省は、上代以来の呼称で閩（びん）という。面積は小さくなく、日本列島の本州の三分ノ二にちかい…山が多く、耕地はすくない」。海岸線の長さと良港に富むことが特徴で、「内陸型の中国において、むしろ希少ともいうべき海洋民族を育て上げるのに役立った」。

ここで、その言葉を転用して、「日本をゆく、中国・閩（びん）のみち」というタイトルを以て、今回、昨年12月に東京都内の中国文化センターで開催した「中国福建古代美術展並びに文化観光展」の展示品を福建―日本の交流史の文脈の中に読み解くことを試みる。

海のシルクロード開く

12世紀以来、福建の泉州はすでに台頭し、東方第一の大港の地位を獲得した。中国ジャンク（帆船）は海のシルクロードを開き、福建―日本関係を一層密接にさせた。

明清時代に入ると、福建―日本関係は一つの全盛期を迎えた。17世紀前半、平戸生まれの福建―日本の混血児である鄭成功（ていせいこう）は、国姓（こくせん）爺（や）の名を馳せて時代の風雲児として歴史に濃厚な一筆を書き残し、中国の民族的な英雄と評価された。

17世紀30年代以降、長崎は対外貿易の唯一の港として指定され、唐船とオランダ船のみの入港が許された。そのうち、福州、厦門（アモイ）、泉州、漳州（しょう）などの福建諸港からの船が多い。唐船は陶磁、書籍と日用雑貨を日本に運び、帰航は日本の銅と俵物などを持ち帰った。

来航の船主は興福寺（南京寺）、福済寺（泉州寺・漳州寺）、崇福寺（福州寺）という三つの寺を作った。これは、長崎の有名な唐三ケ寺であった。このうちの二軒は福建人が作ったもので、長崎貿易における福建商人の重要性がうかがえる。これらの唐寺は中国から唐僧を招き住職を務めた。

明代　呉須赤絵　漳州窯紅緑彩立鳳花卉紋（きもん）大皿

隠元（いんげん）禅師の大きな業績

その文脈で、1654年、隠元禅師は数十人もの弟子を連れて来航し、後に上洛して京都で黄檗（おうばく）山万福寺を開山した。後水尾（ごみずのお）法皇、幕府要人、各大名らは競って隠元に帰依し、「大光普照国師」号という特諡（とくし）が賜（たまわ）れた。

隠元一派は後に黄檗宗という日本仏教の一大宗派までに発展し、黄檗文化は、江戸期の日本に仏教のみならず、書道、絵画、建築、飲食、茶道などにも大きな影響を与えた。

このプロセスから見ると、福建―日本交流史において、貿易ネットワークと文化ネットワークは重なった形で展開され、互いに促すものであることが分かる。今回延べ31件の展示品があるが、その時代は、宋、元、明、清にわたり、日宋貿易から長崎貿易に至る歴史の持続と、その変容を現した。

南宋　建陽窯兎毫茶盞
兎の毛のような窯変（曜変）の文様がある故に、「兎毫」と称された

明、黄檗即非（そくひ）（隠元禅師の弟子・黄檗三筆の一人）の書「喫茶」匾額及び黄檗煎茶道具一組

伊万里焼に日中相互の影響

福建―日本経済文化交流の影響は遠くの欧州にまで及んだ。今回の展示品のうちに、何点もの呉須赤絵（ごすあかえ）があったが、これは、日本に大量輸入された漳州窯（しょう）の出品で、ヨーロッパにも広く好かれて大量輸入された。

17世紀中期の明清交替期の混乱、並びにその後の遷界（せんかい）令などの影響で中国の磁器輸出が妨げられた際、有田焼が台頭して、その輸出港の伊万里の名で欧州に大量輸出された。そのデザインは中国磁器の模倣もあれば、ヨーロッパ人の好みとオーダーに応じて作られたものもある。これらの伊万里様式はヨーロッパで広く歓迎された故に、展海令が実施された17世紀末、中国磁器が再びヨーロッパに輸出された時に、伊万里様式をまねた。これらの中国磁器は「チャイニーズ・イマリ」と呼ばれた。今度は、日本の磁器が逆に中国に影響を与えた。

なお、今回の展示品のうち、三件の南宋の黒釉窯変茶盞（こくゆうようへんちゃさん）がある。日本人は、この予期せずに現れた窯変に夢と幻想に満ちた名前を付けた―「曜変天目（ようへんてんもく）」。まさに雄大かつ幽玄な宇宙に煌めく満天の星のように、福建と日本交流の悠久な歴史と希望に満ちる未来を映し出している。

（武蔵野美術大学教授）

2021新年号　主な内容

明けまして
おめでとうございます
2021年元旦　日本中国友好協会

2面	新年あいさつ
3面	新春支部紹介　東京・練馬支部／1等賞に協会から2人が受賞！（日本僑報社の中国滞在エピソードコンクール）
4面	マンガ　張爺、お話して！
5面	中国レーダー／日中共同世論調査／新連載「中国本土に現存する万人坑と強制労働現場を訪ねる」
6面	羅針盤／東西南北
7面	私と中国／漢詩を読む／牛の話／インフォメーション
8～9面	新春文芸
10～13面	名刺広告
14面	中国滞在エピソードコンクール表彰式／漢語の散歩道／書評／詰碁詰将棋問題／本の紹介
15面	漢字詰めクロスワード／中国映画〈明星〉物語／読者のひろば／詰碁詰将棋解答
16面	中国的生活／中華一番／写真で見る中国の旅